

## 持続可能な開発目標(SDGs)への貢献に関する JST の考え方(初版)

2015 年 9 月の国連総会において、「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」が全会一致で採択されました。このアジェンダで掲げられている「持続可能な開発目標(SDGs)」は、持続可能な世界を実現するための 17 のゴール・169 のターゲットから構成され、我が国を含む地球的・人類的課題を包摂して掲げた目標です。SDGs で掲げられている課題の達成は、国内的には我が国の成長戦略の軸の1つである第 5 期科学技術基本計画に掲げる「Society5.0」や「第四次産業革命」の実現にも密接に関係し、また国際的には途上国をはじめとした国際社会への貢献への基本理念でもあります。

SDGs の達成において科学技術イノベーション(Science, Technology and Innovation: STI)は、私たち人類が直面している持続可能性に関する諸課題の解決や、より良い政策決定に資する科学的根拠を提供することに、強い期待が寄せられています。一方で、SDGs が普遍的かつ包括的な目標であり、科学技術イノベーションだけで、SDGs が達成できるものではありません。SDGs の達成に科学技術イノベーションが貢献(STI for SDGs)していくためには、政府はもとより、大学、研究開発機関、NGO や企業等を含めた多くのステークホルダーが、共通価値の創造(Creating Shared Value<sup>1</sup>)を意識して行動することにより、目標の達成を図ろうという新たな社会的潮流を産み出していくことが重要です。

国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)では、シンクタンク機能、研究開発、産学連携、次世代人材育成、科学コミュニケーション等多岐に亘る機能を活かしつつ、SDGs の活動に積極的に貢献していきます。そのために JST は、まず推進する事業や研究開発プロジェクト等に対して、以下の方針に基づき、SDG アイコンを活用し、SDGs の実現に向けたエコシステムの醸成を目指します。その際、個別の事業や研究開発プロジェクト等の SDGs の達成への貢献度を示すものではなく、SDG アイコンは、ステークホルダーとの共創を促すための共通言語として活用します。

- JST が推進する事業や研究開発プロジェクトの成果等が、社会で実装されることにより、将来、どの SDG(s)の達成に貢献しうるかを、事業実施者・研究者らと共に考えます。
- 当該事業や研究開発プロジェクト等だけで SDGs が実現できるものではないことを踏まえ、JST が推進する多様な事業や他のステークホルダーとどのように連携していけるかを議論します。
- SDGs の達成に向けた貢献への意思を示すことで、当該事業や研究開発プロジェクト等と社会がつながっていくことを推進していきます。

以上

---

<sup>1</sup> 共通価値の創造(CSV)は、社会の課題解決と実施機関/実施者らの発展を両立していく枠組みのこと。